

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
1	(1) 消防団の再編は待たなし、課題を抱える分団の再編は早急に着手すべき防災対策である。 基本計画案P○○～31 4 再編に係る対策として(12)に地域住民との合意形成について説明しております。一般的な行政事業の展開には住民との合意形成は最大限尊重すべきと考えるがこと防災対策事業は人命に係わるものであり、近年の各種災害の発生状況、規模や予想される大規模災害等を勘案すれば直ちに再編に着手すべき緊急事業であり、緊急度No.1地域行政の最重要課題として位置付けるものと認識しています。 ・計画については特段の意見はなく、早急に改訂し、再編に着手すべきです。	消防団の組織再編につきましては、地域防災力の維持・向上を図る上で極めて重要な課題であると認識しております。人口減少や少子高齢化、団員確保の困難化など、消防団を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、必要な見直しを進めてまいります。 また、組織再編に当たっては、地域の実情や消防活動への影響を十分に考慮するとともに、消防団員や関係機関、地域住民の意見を丁寧に伺いながら、実効性のある再編計画の策定に取り組んでまいります。計画については可能な限り早期に策定作業を進め、持続可能な消防団組織の構築に向けて着実に取り組んでまいります。	—

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
1	(2) 個別計画案の第6方面隊の部分について 富士宮市消防団組織再編個別計画(案)によれば、第24・25・2G分団を再編(統合して)1個分団とする計画です。この3個分団は潜在団員数が極めて少なく、団員の確保が困難となり、消防活動を維持することが困難となることとしています。統合にあたり、今後の団員確保が困難と推測される分団の組織統合により安定した体制を維持することとしています。一方、人員確保を優先するあまり有事発生時の団員の出勤条件と地域の連担性が保たれるか否かも検討することも加味することが肝要であると感じます。 中学校区は3個分団とも芝川中学校区ではありますが、地域の連担性を考えると23分団+24分団及び25分団+2G分団、現状の6個分団体制を4個分団体制とし、将来的には柚野地区、芝富地区、内房地区で各1個分団体制とし、第6方面隊3個分団体制の整備を目標としたいかがとも考えます。	分団の再編の枠組みは、各分団の現状の団員数や人口等、様々な視点から考察するとともに、実際に活動する消防団員の意見を十分に反映するため、方面隊別のワーキンググループやその上位の幹事会等での段階を踏んだ検討を経て、策定作業を進めてまいりました。そこで示されたものが第24・25・2G分団の統合(班体制)です。 ただし、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)の70ページにも示すとおり、第6方面隊の各分団に関しましては、今回統合になっていない第23・27・28分団についても将来的な近隣分団との統合について、継続的に調査研究をしていくこととしています。また、統合の枠組みについては、複数の枠組みがあった経緯もあることから、消防団の会議に語り再度検討していきたいと考えます。	有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
2	・第6方面隊の再編について 今は統合しなくてよいと思います。そして、稲子とは柚野が最終的に一緒になるべきで、まだ話し合いをしていくべきと考えます。また、どこも団員は少ない感じのことを言っていたので、消防団員を確保できるよう町内会にお願いすべきです。団員も統合によって辞める人が増える気がします。このようなことから、今統合はしなくてよい気がします。	富士宮市消防団組織再編個別計画(案)のG8ページでも示しているとおり、令和7年4月1日時点において、第25分団及び第26分団の団員数については基準数を満たしております。一方、同G7ページに示している潜在団員数は、市内平均を大きく下回っており、近い将来団員数の維持は困難となることが懸念されます。この計画は、地域防災の要である消防団を将来にわたり維持していくための計画ですので、統合は不可避であると考えます。 また、統合の枠組みについては、計画(案)で示すとおり、柔軟に検討していきたいと考えます。	一部 有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
3	・第6方面隊の再編について 富士宮市消防団組織再編個別計画(案)では、第6方面隊の第24・25・26分団を第24分団(3班制)へ再編する案が示されていますが、管轄区域の見直しも含めて再検討が必要ではないかと考えます。今後さらなる人口減少が見込まれる中、消防団再編そのものは避けておれない課題だと思います。しかし、再編方法については、例えば 「(23・24)分団」「(25・26)分団」「(27・28)分団」といった編成も含め、地域の実情に応じた複数の選択肢を検討すべきではないでしょうか。また、再編によって特定の分団へ負担が集中することのないよう十分な配慮をお願いしたいと思います。地域全体の課題であり、可能な限り協力していく考えですが、公平性を確保した組織体制の見直しが必要だと考えます。さらに、実際には常時活動に参加する団員は限られていると思います。そうなると実際の運営は実員数より少ない人数で行われていると思います。基準団員数についても、実員数や実際の出勤状況を踏まえた見直しが必要ではないでしょうか。 次に、計画(案)では、基準団員数を「ポンプ車1台当たり5人×出勤率(34%)」を基準として算出しているとのことですが、出勤率は市全体の平均値であり、地域特性や時間帯によって大きく異なると思われます。より実態に即したデータを用いて検証していただきたいと考えます。 以上のことから、第6方面隊の再編については、管轄区域や団員の実態、将来の人口動向などを踏まえ、再度検討していただければ幸いです。	管轄区域については、学区区をベースに検討を行ってきました。また、各分団は、長きにわたり地域と強い関わり合いの中で活動してきた経緯があり、地域に根ざした組織であります。このことから、これまで育んできた地域との関係を維持するため、急激な変化を伴わないよう、管轄区域の見直しについては、できる限り最小限に留めております。 統合の枠組みについては、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)の70ページにも示すとおり、第6方面隊の各分団に関しましては、今回統合になっていない第23、27、28分団についても将来的な近隣分団との統合について、継続的に調査研究をしていくこととしています。また、統合の枠組みについては、複数の枠組みがあった経緯もあることから、消防団の会議に語り再度検討していきたいと考えます。 各分団の団員の基準数の算出について、令和7年の富士宮市消防団の全災害に対する平均出勤率34%を乗じて算出していることへの御意見についてですが、団員の方々の就業環境の変化等も考慮すれば、市全体の平均値で算出することが望ましいと考えます。 将来の人口動向などを踏まえた検討についての御意見ですが、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)には、令和7年4月1日時点の各分団の管轄の13歳から37歳までの人口を示しています。敢えて13歳の人口としているのは、5年後に消防団員への入団可能年齢となる18歳を迎えるからです。実際には転出等さらに人数が減少することもあるかと思いますが、このような形で将来の人口動向を推測しています。	一部有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
4	・第6方面隊の再編について 消防団員の減少や高齢化が進む中で、将来を見据えた再編が必要であることは理解しました。しかし、現在示されている24・25・26分団の再編案については疑問があります。過去にも複数の再編案が検討されてきた経緯があることや、担当者や役員の交代により議論が変わってきたこともあったと聞きます。そのような経緯がある中で、現在の組み合わせが最適なものがわかりません。24・25・26分団との統合には地理的な課題があり、25・26分団との統合についても地域性や活動範囲を考えると、本当に最適な組み合わせなのか疑問です。一方で、人口減少は今後も続くことが予想されるため、一部の再編ではなく、芝川地区全体を見据えた計画が必要ではないでしょうか。地区割りや担当区域、車両配置なども含めて総合的に検討し、将来にわたり地域防災を維持できる体制を目指していただきたいと思います。今回のパブリックコメントが形式的なものではなく、市民の意見を反映して計画を見直す機会となることを期待します。	今回の計画(案)は、消防団のワーキンググループ、ワーキング幹事会、策定会議を経ての計画です。地域性及び地理的な事柄も含め検討が行われました。また、担当者や役員が交代しても目指すべき道筋を明確にし、将来にわたり持続可能な消防団組織とするため、今回計画を定める必要があります。 一部の再編ではなく、芝川地区全体を見据えた計画が必要なのではないかとこの御意見につきましては、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)の70ページにも示すとおり、第6方面隊の各分団に関しましては、今回統合になっていない第23・27・28分団についても将来的な近隣分団との統合について、継続的に調査研究をしていくこととしています。このことから、さらに前進した計画の策定に向け、消防団の会議に語り再度検討していきたいと考えます。	一部有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
5	・第24、25、26分団の統合について 24、25、26分団の統合は無理があると思います。25、26分団は、災害時に富士川に架かる橋が通行不可能になるかもしれません。24、27分団は隣接分団であることから本来この2つの統合が妥当だと思います。23分団が桜峠が災害時には通行不可能だということであれば、25、26分団も内房橋が通行不可能になる可能性があるかもしれません。また、27分団の管轄エリアが広くなるということであれば、管轄エリアの見直しも考慮すればいいと思います。25、26分団の統合については早かれ遅かれ必要となるが、現時点では必要はないと思います。	災害の態様は様々であり、橋の通行に関しても定かなことは言えません。ただし、災害時の対応は多種多様であり、地域に団員がいれば、他の団員や団本部との情報伝達が行われ、消防団活動は維持されます。災害時の情報収集は重要な任務です。今回の計画では、各分団ごとの潜在団員数及び地理的要因を加味した上で、消防団のワーキンググループ、ワーキング幹事会、策定会議を経ての計画(案)となっております。 また、現時点では統合する必要はないと思うという御意見につきましては、この計画は、将来を見据え、持続可能な消防団組織とするための計画であり、現時点の体制のみを考慮している計画ではないということを御理解ください。	無

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
G	・第24、25、26分団の統合について 将来的に消防団員の確保が難しく再編が必要であることは十分理解しました。しかし、24・25・26分団の再編案については再度検討が必要かと思えます。現時点での24分団の団員数が12人であるのにも関わらず、将来消防団員が少なくなる可能性があるのに計画案の中では基準数が15人となっています。どのように人数を確保するのか疑問が残ります。24分団の団員数が少なくて困るのならば統合ではなく、有事の際、6方面隊全体で24分団をカバーする体制にした方が良いのではないかと考えます。また、団員募集のため各家に何っても本人にすら会わせてもらえないという話も聞きますが、その事実を自治会組織の方々にも伝えた方がよいと思います。そういった事実を自治会の方々も知ること、統合についてやむを得ないという考えにもなると思います。統合するのであれば、分団員の意見だけではなく、もっと地域全体を巻き込んで行った方がよいと思います。市民の意見を募集するのであれば、パブリックコメントに寄せられた意見を十分に検討し、必要であれば現在の案を見直すことも含めて判断していただくことを希望します。	「現時点での24分団の団員数が12人であるのにも関わらず、将来消防団員が少なくなる可能性があるのに計画案の中では基準数が15人となっています。どのように人数を確保するのか疑問が残ります。」という御意見につきましては、基準数は、富士宮市消防団組織再編基本計画の32ページに示している車両に対する人員の考え方から算出したものであります。現状、第24分団にはポンプ車を配備しているのでその基準に基づいて15人となります。 「有事の際、6方面隊全体で24分団をカバーする体制にした方がよいのではないかと考えます。」という御意見につきましては、第24、25、26分団で相互にカバーするためにも、この3個分団で統合し、3班制とする案が消防団のワーキンググループ、ワーキング幹事会、策定会議を経て計画されました。 「分団員の意見だけではなく、もっと地域全体を巻き込んで行った方がよいと思います。」という御意見につきましては、まずは、実際に活動されている団員の方々の意見を一番に考慮するために消防団内で計画(案)を作成し、地区への説明につきましては、各分団もしくは事務局も交えて行っています。	無

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
7	(1) 消防団員の子承について 詰所の統廃合を含めた再編については地元消防団の子承をもとに作成しているかと思いますが、現役の消防団員からは今回の再編計画についていくつかの不満を聞きます。「了承を得ている」というにはまだ尚早の感じがします。もう少し地元消防団の話を聞く場を設けるべきだと感じています。今後そのような場を設けられることはあるのでしょうか？	(1) 今回の計画は、消防団のワーキンググループ、ワーキング幹事会、策定会議を経ての計画(案)となっておりますので、消防団の了承を得た上で作成されたものであると認識しております。なお、ワーキンググループには、各分団3名以上の団員の方々に出席していただいております。ただし、今後とも計画(案)の内容の説明をすることに関しては、個々で対応することは可能です。	一部有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
7	(2) 第6方面隊各分団の団員の基準数について 諸所の統廃合を含めた再編について、その根拠となる資料も提示していただきありがとうございます。資料の中に各分団の「住民1,000人当たりの消防団員数」といったものがあればよかったのですが、そのような資料はありますか？第6方面隊は他の方面隊と比べて、団員の基準数が多いように思われ(第6方面隊の消防団員の負担が大きい)、今回の再編は団員数を適正なものにする良い機会ではないかと思いました。(第6方面隊の基準数が多いというのは私の感想で実際どうなのか確認したいです) (3) 機能別団員について 機能別団員の定年について記述されていますが、そもそも機能別団員について市民への周知があまりされていないと感じています(地元で機能別団員であるという方にお会いしたことがありません。)。第6方面隊の消防団員数を減らす計画がある中で機能別団員というものを増やして住民の安全を守るという考え方もありますが、実態がどのようなものなのか市民に周知しようという考えはありますか？現状の富士宮市の機能別団員の実態(各方面隊に所属する機能別団員の数、どのような活動を行っているのか、どのような方が機能別団員になられているのか)を教えてください。	(2) 住民1,000人当たりの消防団員数ですが、令和7年4月1日時点での数値で計算すると第23分団が10.9人、第24分団が3G.3人、第25分団が38.9人、第26分団が47.6人、第27分団がG.5人、第28分団が24.9人となっています。第6方面隊の各分団の基準数が他の方面隊の分団と比較して多いのではないかと御意見につきましては、現状、他の方面隊でもポンプ車1台に対して基準数が15人を超えている分団が複数あることから比較上多いということはないという認識です。ただし、今回の再編に関連する分団は、富士宮市消防団組織再編基本計画(案)32ページに基づく算定方法により基準数の見直しをしております。 (3) 機能別団員について、市民の皆様にも周知されていないのではないかとについては、御指摘のとおりであると思います。富士宮市消防団の機能別団員は、令和4年度から導入しており、主に災害等のみに出動する災害団員として、通常団員のように各種普及・啓発活動や式典等への参加が比較的不いのが特徴です。入団条件の概要としては、消防職員又は団員として5年以上勤務した経験を有するものとなっており、定年は70歳です。このような条件があることから、消防団に対しては周知をしております。	—

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
8	・第6方面隊の統合案について 統合する判断はこの先を考えても正しい、ただ、統合の仕方を見ると先を見据えた上だとしたら6方面隊は3個分団、もしくは2個分団まで統合しても良さそう。・条例改正、指令システムの改修等を考慮すれば、今後さらに統合が必要になった時に余計な時間と費用がかかると思うので、やるなら一気にやっておき、予算を取れるタイミングで随時、合同詰所、ポンプ車を軽トラックへ変更等しやすい体制を考えてやるべきではと思う。・人口減少に伴い、収収の減少が見込まれ昨今の物価高等も考慮すると消防団の予算を維持しつつ効率よく使うためには多くの統合を進めていくべきではないか？統合した場合にこれくらい予算が削減ができ、その分で団員の待遇改善や機材の購入等に充てる費用が作れるかをもう少し明確に数字として出ればわかりやすくなりそう。・地域の人たちも、あつちは統合、こっちはそのままとなると不公平感を感じる人もいので全体がこうなりますなら、そこの不満はなくなるかと思う。・住所地での区分けではなく、世帯数、人数、面積等、区割り自体も考えるきっかけになればいいと思います。	「先を見据えた上だとしたら6方面隊は3個分団、もしくは2個分団まで統合しても良さそう。」そして、「人口減少に伴い、収収の減少が見込まれ昨今の物価高等も考慮すると消防団の予算を維持しつつ効率よく使うためには多くの統合を進めていくべきではないか？」という御意見につきまして、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)の70ページにも示すとおり、第6方面隊の各分団に関しましては、今回統合になっていない第23、27、28分団についても将来的な近隣分団との統合について、継続的に調査研究をしていくこととしています。このことから、さらに前進した計画の策定に向け、消防団の会議に諮り再度検討していきたいと考えます。また、富士宮市消防団組織再編基本計画(案)の3ページにも示すとおり、車両や詰所の整備につきましては、消防車両等更新計画や富士宮市公共施設再編計画等、関連する各種計画との整合性を図っていきます。	一部有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
9	・分団の統合について 人数が多い分団の負担が大きにならないように、平等になるような具体的な内容が欲しいですね。	平等かつ具体的な内容とするため、実際に活動する消防団員、そして富士宮市消防団の将来を担う若手団員の意見や考えを反映させるため、富士宮市消防団組織再編基本計画(案)の32ページ及び35ページに示すとおり、各分団の分団長と部長以下の団員2名程度のワーキンググループによる検討をしてきた計画(案)となっております。	—

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
10	・新たな消防団員確保対策について この度、消防団に関する意見募集があることを知り、小学3年生の息子と一緒に考えてみることにしました。 息子は消防車や消防士が大好きで、近所の分団へもよく見学に行きます。そこで団員の方と話をしている中で「子供の声で火災予防を呼びかける」というアイデアが出てきて、息子も大変共感しました。 「僕も消防団の活動をしたい」と話し、自分の言葉で手紙を書きましたので、一緒に提出させていただきます。 私自身も、子供の声には大人の心を動かす力があると感じています。火災予防の呼びかけを子供たちが担うことで、家庭で防火について話すきっかけにもなり、地域全体の防火意識の向上につながるのではないのでしょうか。また、子供たちが消防団の活動に触れる機会が増えることで、将来の消防団員や消防士を目指す子供たちを育てることににつながると思います。具体的には、実際に地域の消防団員さんに会い、直接団員さんのスマートフォンに声を録音し、それをマイクに当てて流す、そんな簡単な方法で試することができるのではないかと思います。 地域の課題を自分ごととして関わりたくなる仕組みがあれば、消防団だけでなく、広く地域への愛着を育てることにものなるのではないのでしょうか。	小学3年生のお子様は消防団の活動に関心を持ち、地域の安全を守る取り組みについて自分自身で考え、提案して下さったことを大変うれしく思います。また、日頃から消防団の活動に触れる中で生まれた「子供の声で火災予防を呼びかける」というアイデアは、地域の皆様に防火意識を持っていただくための新たな取り組みとして、大変意義のあるものと受け止めています。子供たちの声には、地域の方々の心に届きやすく、家庭で防火について話し合うきっかけを生み出す力があります。子供たちが消防団の活動に関わる機会をつくることは、将来の地域防災の担い手を育てることにもつながるものと考えています。御提案いただいた、子供たちの声を活用した火災予防の呼びかけについては、消防団の会議にも取り上げていきます。特に、直接団員の方々と直接触れ合う機会を持つことに大きな意義があると思いますので、御提案いただいた内容を計画に反映し、地域の子供たちが消防団を身近に感じ、楽しみながら防火・防災について学べる機会づくりを進めていきたいと考えております。	有

No.	提出された意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への意見反映の有無
11	・第6方面隊の統合案について 今後の人口推移を鑑みて方面隊の再編は必要と考えます。しかし、今般の計画書にあるような特定分団のみの再編ではなく方面隊全体での再編とした方がよいと思います。旧内房地区である25、26分団の統合は合理的であり納得できます。反面、再編が急務とされる24分団（稲子地区）の受人先をこの2個分団の再編に取り込むのは強引であるという印象を受けました。稲子地区の消防団活動について、同地区での自立した活動が困難であるならば、単純な分団同士の統合ではなく上稲子と下稲子を分割し、それぞれを他分団の地区に取り込むなど、地区割の変更を含めた再編成が望ましいのではないかと感じました。	消防団のワーキンググループ、ワーキング幹事会、策定会議を経ての計画ですので強引ではないという認識です。また、富士宮市消防団組織再編個別計画(案)の70ページにも示すとおり、第6方面隊の各分団に関しましては、今回統合になっていない第23、27、28分団についても将来的な近隣分団との統合について、継続的に調査研究をしていくこととしていますので、さらに前進した計画の策定に向け、消防団の会議に語り再度検討していきたいと考えます。	一部有
12	・6方面隊の統合案について 人口・潜在団員の少ない分団同士を統合してもかえって負担がさらに大きくなる。人口・潜在団員の多い分団と少ない分団を統合させる方が良い。なお、人口・潜在団員の少ない分団同士を統合しても課題は解決も先送りもされず、またすぐに同じ課題に直面する。	潜在団員の少ない分団同士の統合では、潜在団員の多い分団との統合と比較した場合に確かに統合によるメリットは低くなると思われます。一方、現状よりは1個分団当たりの潜在団員数が向上するのも事実です。なお、すぐに同じ課題に直面するという御意見につきましては、さらに前進した計画の策定に向け、消防団の会議に語り再度検討していきたいと考えます。	—